

大震災を経験して

2011年3月11日。その日私達は、次の日に控えた卒業式の準備をしていました。今までお世話になった先輩方に感謝の気持ちを伝える最後の行事でもあり、みんな一生懸命準備をしていました。そんな中、2時46分。誰一人として予想もしていなかった大震災。突然の地震に驚くことしかできませんでした。理科室、体育館、教室、それぞれの場所に散らばっていたみんなが先生方の誘導の下、校庭の中心に避難しました。その時私の頭の中は、家族と家のことでいっぱいでした。高台に避難する最中、下を見れば今まで過ごしてきた自分たちの故郷が津波に全部奪われていました。

(思い出とぬくもりが沢山つまった町が全部なくなってしまった…)
という気持ちで頭の中が真っ白になりました。

それから私達は避難所生活を余儀なくされました。中学生の私達は、掃除や手伝いなどを行いました。

そして家族が迎えに来たときは、「無事で本当に良かった。」とすごくほっとしました。それから父の実家でしばらく過ごしました。しかし、ライフラインはしばらく復旧しませんでした。夕食はもちろんのこと就寝が日没とほぼ同時間帯というつらい生活が続きました。

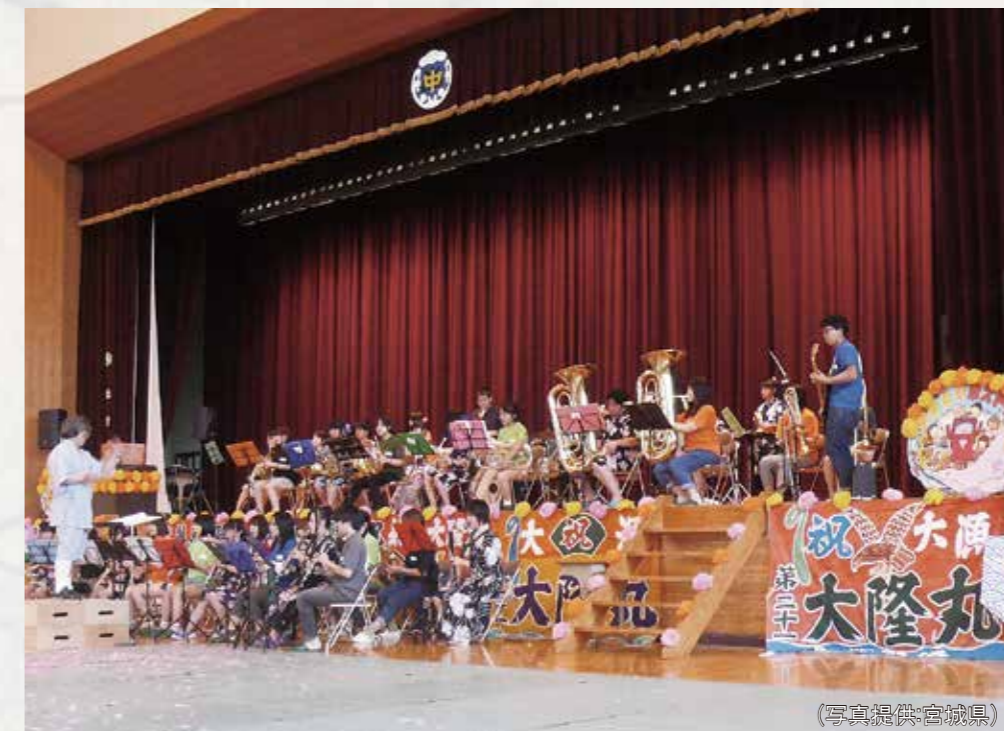
私はつらい日々を過ごしなが、改めて今まで全然気に留める

ことがなかった電気や水道の有り難さを痛感させられました。同時に、このような非常事態がいつまた起きてもおかしくないの、こういう事態になっても冷静に対処できるように合同訓練はもちろんのこと、常日頃から自分自身も真剣に考えておくことが大事だと思っています。

震災を通してつらいことも数多くありましたが、学んだことも沢山ありました。

あれから1年8か月経った今、自分たちには何ができるのかを考え、少しでも地域の役に立てるように努力していきたいと思いません。

(平成25年3月 南三陸町教育委員会発行 震災作文集『希望に向かって』より)



歌津復興夏祭りでの吹奏楽部の演奏

(写真提供:宮城県)